

シリーズ 地域医療連携⑤

放射線科の取り組み

国立病院機構和歌山病院

診療放射線技師長 上垣 忠明

地域連携では、地域の診療所および病院がそれぞれ得意分野を生かし、その地域の状況に応じて役割を分担して専門化を進めることが大切だと言われています。そして

各々の医療機関がよく連携して各施設の持つている役割を活用することで、患者様や住民の皆様にとって適切な医療を受けていただくことを目的としています。

今回は、地域医療連携としての和歌山病院放射線科の取り組みについて、2つお話ししたいと思います。

まずは日高地方をカバーする放射線治療についてです。放射線治療は、遺伝子に働きかけて、がん細胞が増えないようにすることで、がんを消滅させます。放射線治療の利点は、手術によって切除することなく、がんに対して治療効果が期待できることです。臓器をそのまま残したり、臓器の働きをがんになる前の状態に近づけることが可能です。

また最近では、がんが骨に転移した際の痛みや、神経を圧迫して起こるしびれなどを和らげることを目的とした治療も、積極的に行われるようになってきました。がんの種類によって放射線治療の効果(効きやすさ、治りやすさ)は異なり、治療の場所などによって副

合で認知症になりやすいと言われている、パーキンソン病の方に対応しています。

この認知症の診断に、アイソトープ検査が用いられます。アイソトープ検査は脳に集まる特別な検査薬(微量の放射線を出す薬)を体内に注射して撮影します。撮影して得られた画像は、パーキンソン病や認知症を診断する手助けになります。

最近では、パーキンソン病やレビー小体型認知症の診断精度の向上に有用な検査薬が使用できるようになり、以前からあった検査薬とはまた違った病態情報が得られ、認知症をより早期に診断できるようになりました。

認知症は、初期の軽い症状であれば適切な医療およびケアを受けることで改善する可能性が充分あると言われます。実際にイギリスやデンマークでは初期段階から支援に入ることで、自宅での生活期間を長く出来た実績が報告されています。このことから、早期発見、早期治療を行うことができる地域連携が非常に重要であり、住民の皆様がアイソトープ検査を容易に受けられる環境の整備に取り組んでおり、今後一層、良いものを提供できるように計画しています。

今回は医療連携として和歌山病院放射線科の取り組みのなかで2つのお話をしました。これから地域の医療機関が手を組み患者様を中心として自己完結型医療を日高地方で維持するために努力していきたいと考えています。